

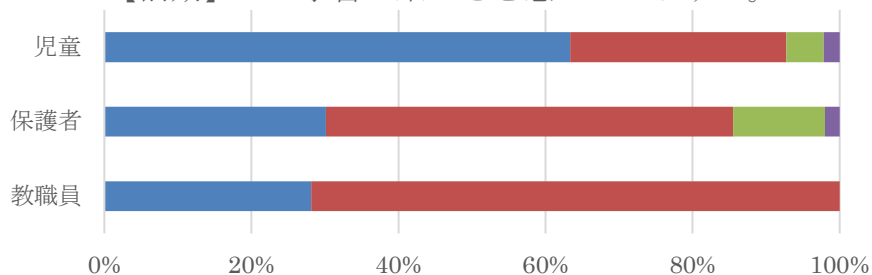


# 朱一だより

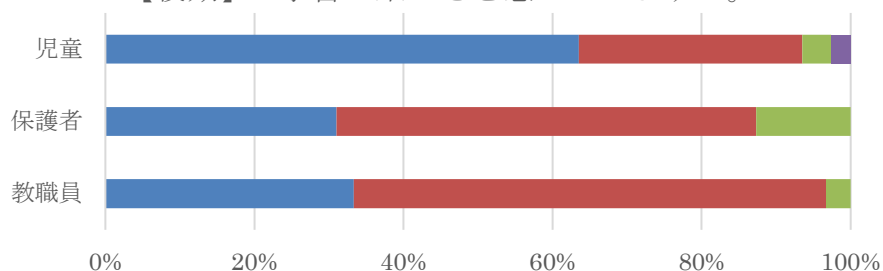
令和7年3月  
特別号  
京都市立朱雀第一小学校  
Tel 841-3201  
校長 志村 光司

## 進んで学習する子【良い点】

【前期】1. 学習の楽しさを感じていますか。



【後期】1. 学習の楽しさを感じていますか。



「学習の楽しさを感じていますか」の項目において、保護者の回答の「感じていない」が後期にはなくなりました。児童も全体的にみて学習に楽しさを感じる児童が増えてきたと言える結果となりました。教職員も指導方法をふり返り、工夫をしたという回答が伸びています。その結果、児童の学習の理解度も深まったという結果につながったと考えられます。

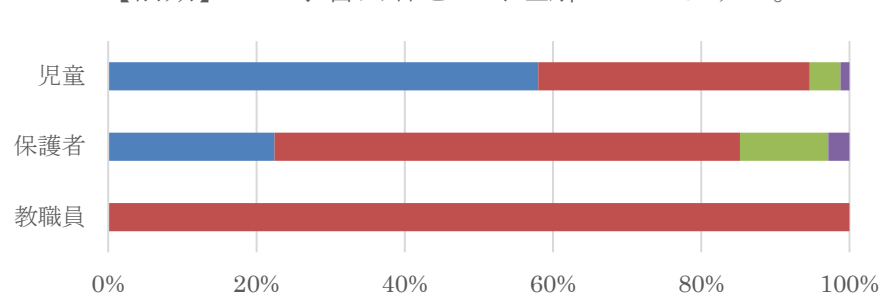


## 【令和6年度朱一つながりアンケート結果報告】

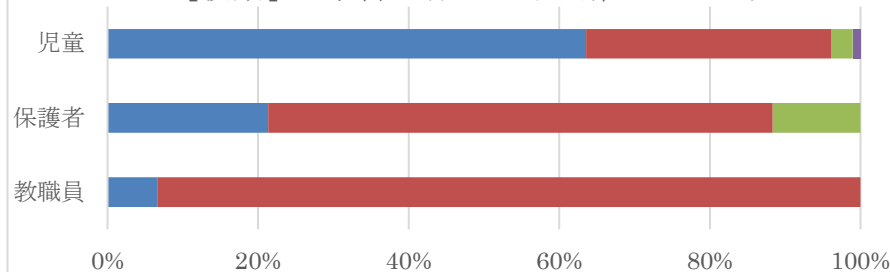
朱一つながりアンケートにご協力いただきありがとうございました。

前期と同様、学校と家庭が同じ目線で子ども達を育てていくという観点から児童は自分自身について、保護者はお子さんの様子やご家庭での取組について、教職員は学校での児童の様子や学校での取組についての回答してもらう項目で実施しています。結果について、ご報告いたします。

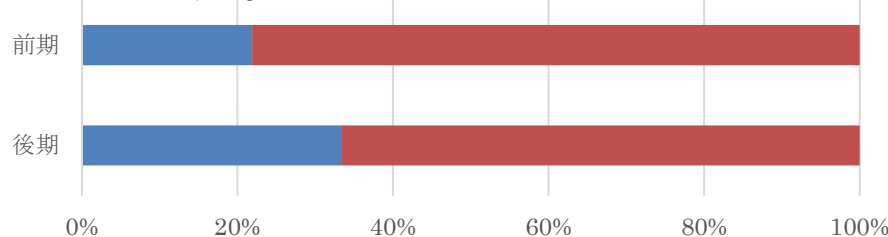
【前期】3. 学習内容をよく理解していますか。



【後期】3. 学習内容をよく理解していますか。



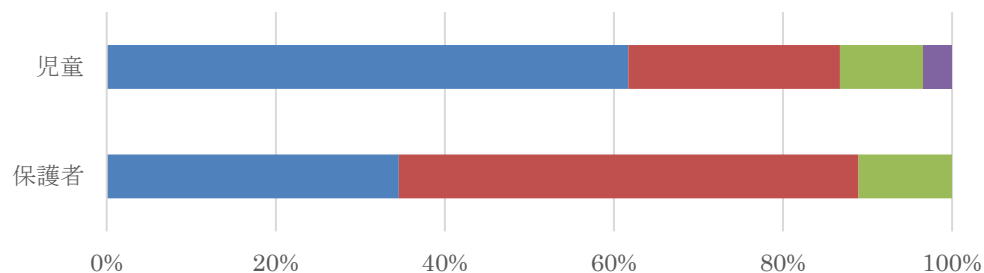
1 9 学習の楽しさを感じられる指導方法等の工夫をしていますか。



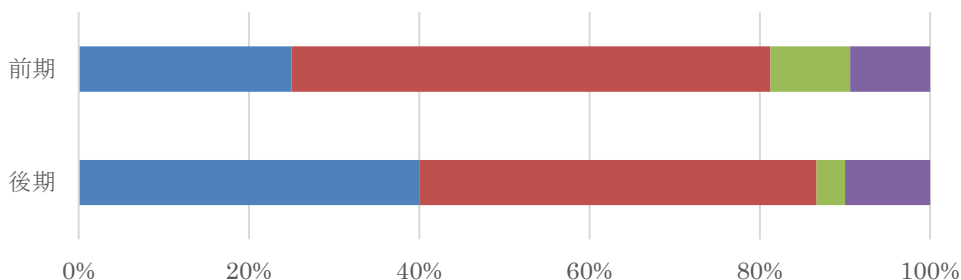
■ そう思う ■ だいたいそう思う ■ あまりそう思わない ■ 思わない

## 進んで学習する子【改善点】

【後期】6.宿題は、学力向上の役に立っていますか。



24. 児童の実態に応じた宿題を工夫していますか。

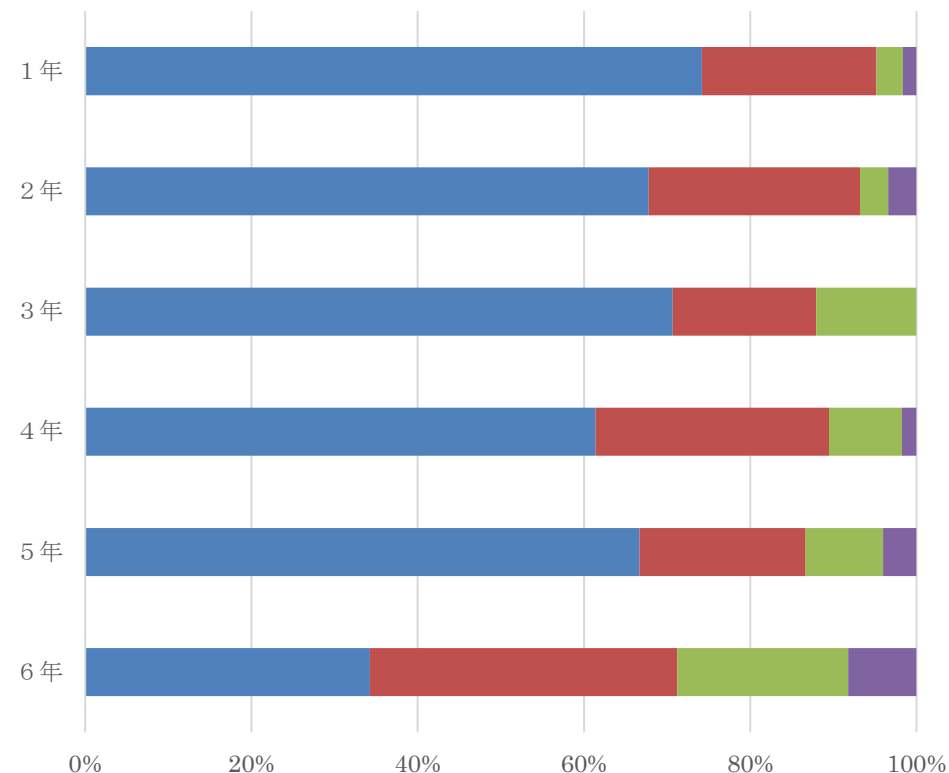


「宿題は学力向上の役に立っていますか」の項目において61%児童が「そう思う」と回答し、「だいたいそう思う」を加えると86%児童が肯定的に回答しています。

教職員は、1学期からさらに児童理解に努め、実態に応じた宿題が出せるよう工夫を重ねてきています。

学年別に見てみると、6年生の肯定的な回答がほかの学年と比べて低いことが分かります。6年生で肯定的に回答した理由としては、「学習の復習ができるから」が多く、否定的に回答した理由は、「面倒」「スマホアプリなどで学習しているからいらない」などがありました。進学のために学校で出される課題以外のものに取り組んでいる児童も多く、宿題を負担に感じていることが伺えます。

【後期】6.宿題は、学力向上の役に立っていますか。



宿題の出し方について来年度にむけて

○学年や学力に応じた内容や量にすること（内容）（量）

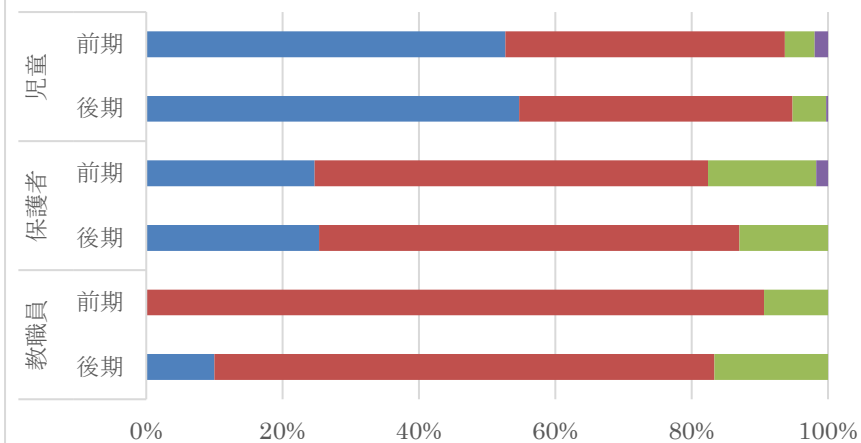
○学年ごと、成長段階ごとにねらいを明確にすること（ねらい）

このために、学校全体として宿題のねらいを設定し、教職員と保護者がねらいを共通理解することが必要であると考えます。来年度の課題として考えていきたいと思っています。



## 思いやりのある子(良い点)

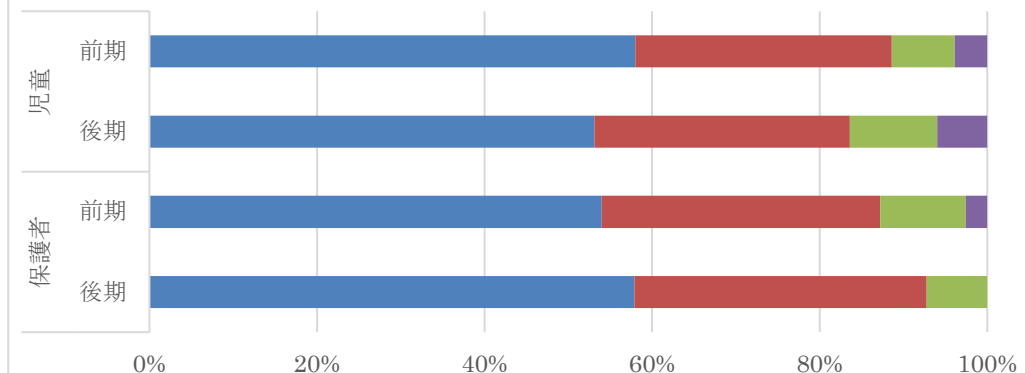
10. 自分で考えて行動できていますか。



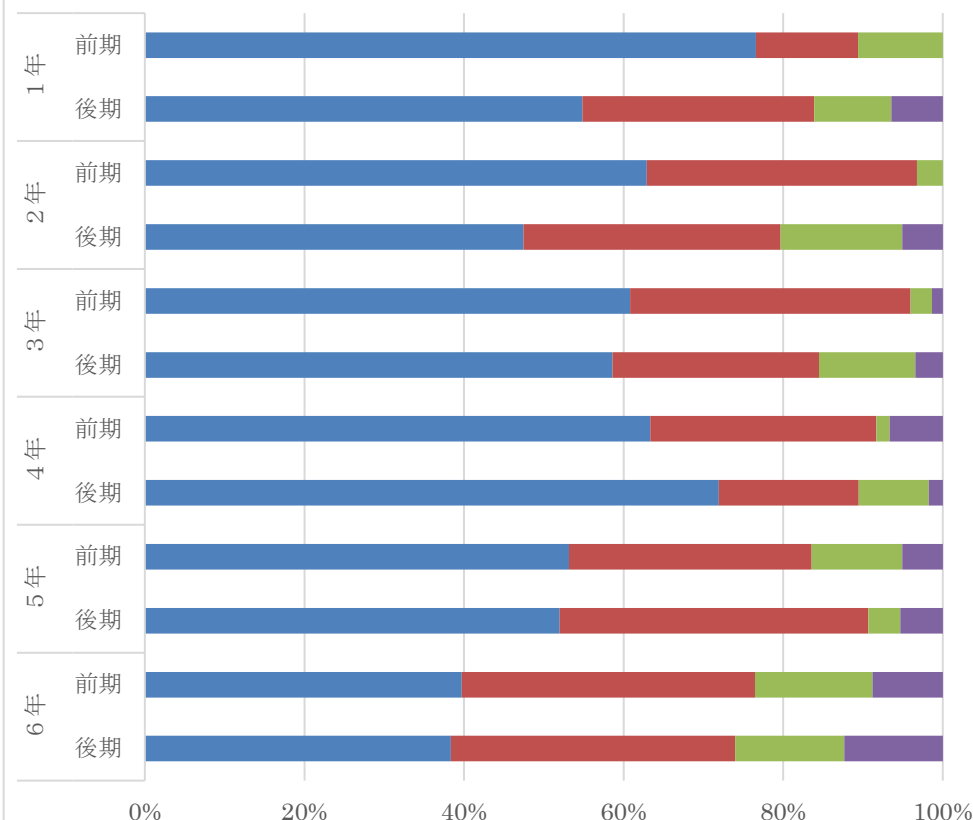
「自分で考えて行動できていますか。」の項目では、児童の「していない」の回答がわずかとなりました。学年別に前期と後期を比べてみても、「していない」の回答がほとんどの学年で減っています。また、保護者の肯定的な回答が5%上がりました。また、教職員の肯定的な回答は減りましたが、「している」の回答がぐんと伸びています。学級では、係活動や一人一役など役割を受け持つ取組もしています。よりよいクラス、学年になるためには何ができるのか考えられるよう目標をもち、それに向かうために何をするのかも具体的に考えることを大切にして指導してきています。次の学年への目標を持ち、なりたい自分に向かって行動できる姿につながるよう今後も指導を続けていきます。

「学校の出来事をおうちの方に話していますか。」の項目では、児童の肯定的な回答が低くなりましたが、保護者の肯定的回答が高くなりました。保護者の方がご家庭で時間を作ってくださっていることを感じます。学年別にみると、5年生の肯定的回答が83%から90%に伸びました。他の学年でもさらにご家庭で話題になることが増えるよう学校での取組を発信する機会を増やしていきたいと思ひます。

15. 学校の出来事をおうちの人に話していますか。

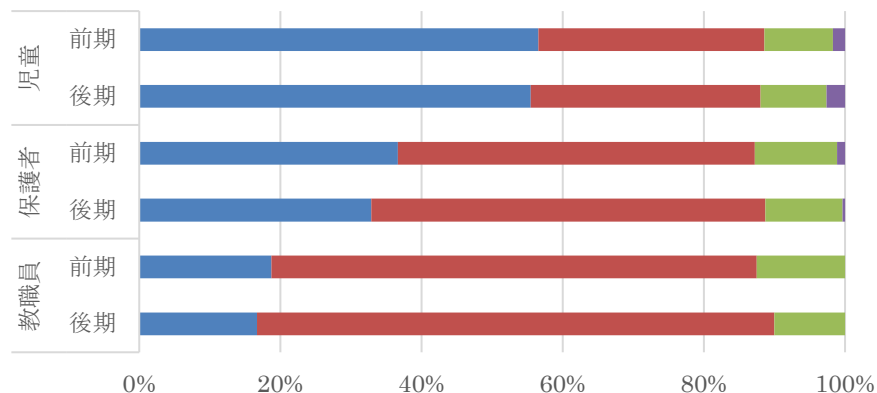


15. お子さんは、学校の出来事をおうちの人に話していますか。

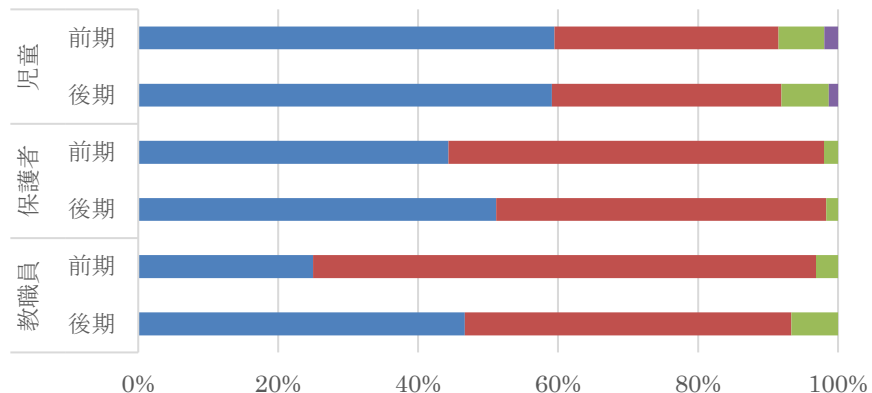


## 思いやりのある子【改善点】

9. 周りの人にあいさつをしていますか。



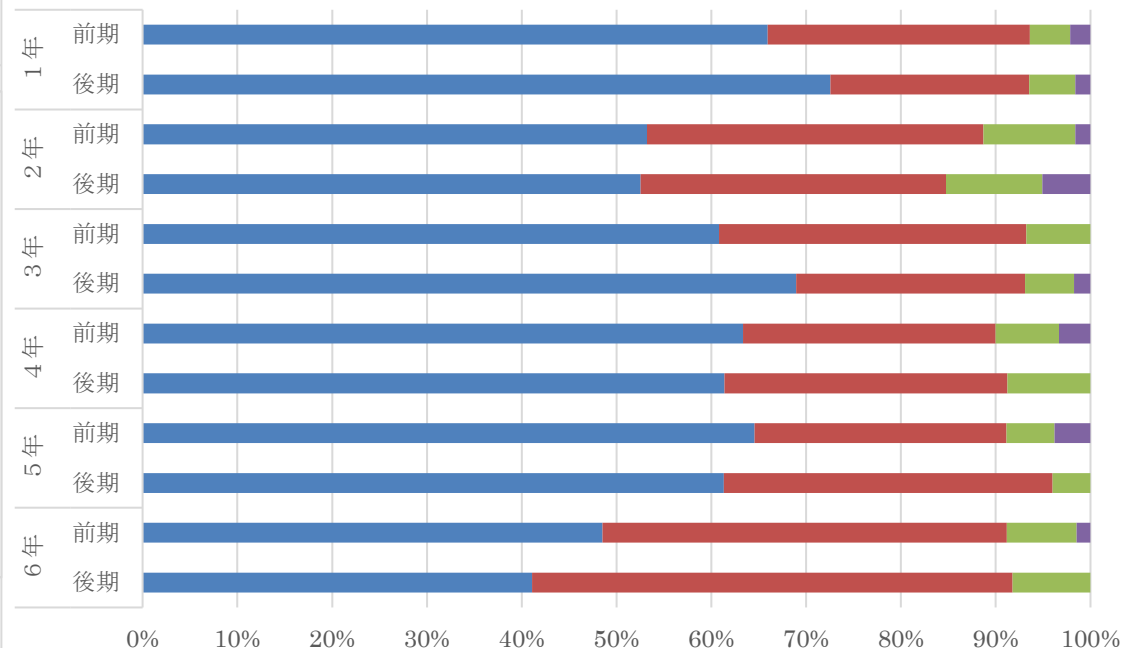
14. 友だちの良いところや、自分と違う良さを認めていますか。



「周りの人にあいさつをしていますか。」の項目では、児童の回答にあまり変動はありませんでしたが、わずかに「していない」と答えた児童が増えています。反対に、保護者と教職員の肯定的な回答が少し増え、「していない」という回答が0になりました。児童会の取組で、あいさつ劇をしてくれました。その後、あいさつをする友だちが増えたと言った児童が実感しています。さらに児童自身があいさつの大切さを実感できるよう学校でも取り組んでいく必要があると感じます。

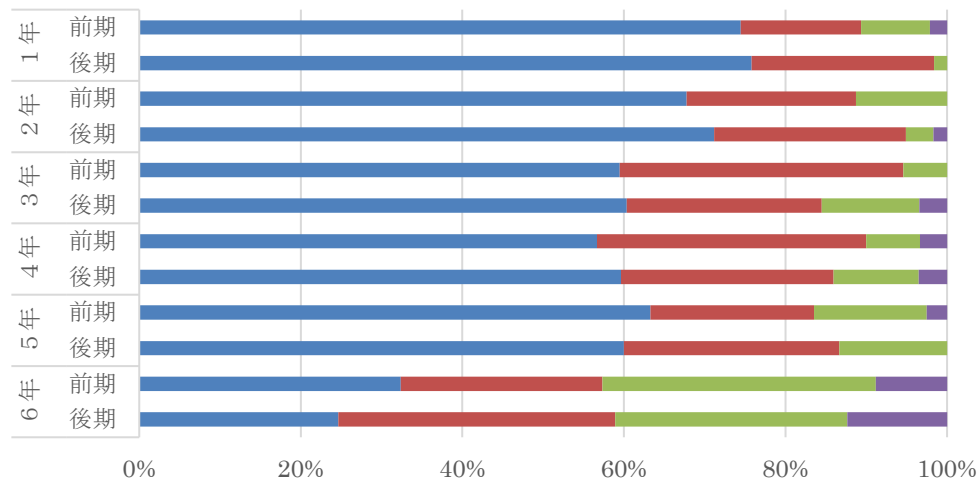
「友だちのよいところや、自分と違う良さを認めていますか。」の項目では、4～6年生の「認めていない」の回答がなくなりました。友だちの良さや自分と違うよさを認めている子が多いですが、普段の様子を見ていると自己肯定感の低さが気になる場所です。学活や道徳の時間や普段の生活の中など様々な時間に「友だちのいいところ」を伝える機会を作っています。友だちにも自分にも良いところがあることをさらに実感できる取組が今後の課題です。

14. 友だちの良いところや、自分と違う良さを認めていますか。

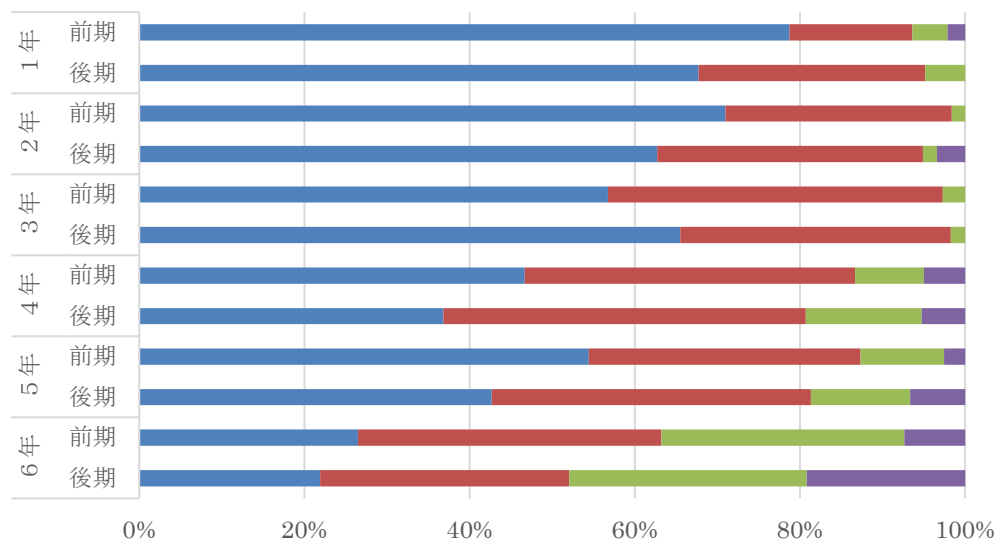


## 心も体も元気な子【良い点・改善点】

16. 身体を動かす習慣（遊びやスポーツ）が身についていますか。



17. 規則正しい生活を送れていますか。



「身体を動かす習慣（遊びやスポーツ）が身についていますか。」の項目では、前期より後期の方が肯定的な結果が下がると予想していましたが、全体的に見て肯定的な結果が伸びるという結果となりました。係活動やみんな遊びなど、子どもたちが自主的に声をかけて遊ぶ姿もたくさん見られます。学級の中で役割を果たしたり、いっしょに活動する喜びを感じたりすることをこれからも継続していけるように取り組んでいきます。

「テレビやスマホ・ゲームなどの時間が長くないように気を付けて使用していますか。」の項目については、6年生の否定的な回答が伸びていることが分かります。「規則正しい生活を送れていますか。」の項目についても同じような傾向がみられます。学校でもメディア教育に取り組んでいますが、これまで以上に自分の健康のことを考えられるようにこれからも指導していきます。

18. テレビやスマホ・ゲームなどの時間が長くないように気を付けて使用していますか。

